

丸興山庫蔵寺

丸興山庫蔵寺は 1322 年に鳥羽の森に覆われた山の奥深くに建立されました。この寺は九鬼家の庇護を受けており、九鬼嘉隆は 1594 年に完成した鳥羽城の築城の際、安全を祈願するためにこの寺に参拝しました。本堂は 1561 年に建てられたもので、こけらぶき屋根が特徴的です。こけらぶきとは、薄い板（通常はヒノキ）を使う伝統的な屋根の葺き方です。

本堂の天井は絵画で飾られ、壁には様々な菩薩（人々を悟りに導く存在）の姿が描かれています。本堂の裏手からさらに山を登っていくと、1615 年に嘉隆の息子・守隆が建立した鎮守堂があります。鎮守堂には子育てと出産を司る仏教の神、鬼子母神が祀られています。本堂と鎮守堂は両方重要文化財に指定されており、一般公開されています。

丸興山庫蔵寺へは徒歩でしかアクセスできません。山麓から深い森の中を歩いていくと急な石段があり、その石段の先に本堂があります。